

寛永諸家譜

清和源氏辛七冊之内
義光流之内小笠原

50

内閣文庫			
番號	和	20199	
冊數	186(50)		
函號	特	76	1



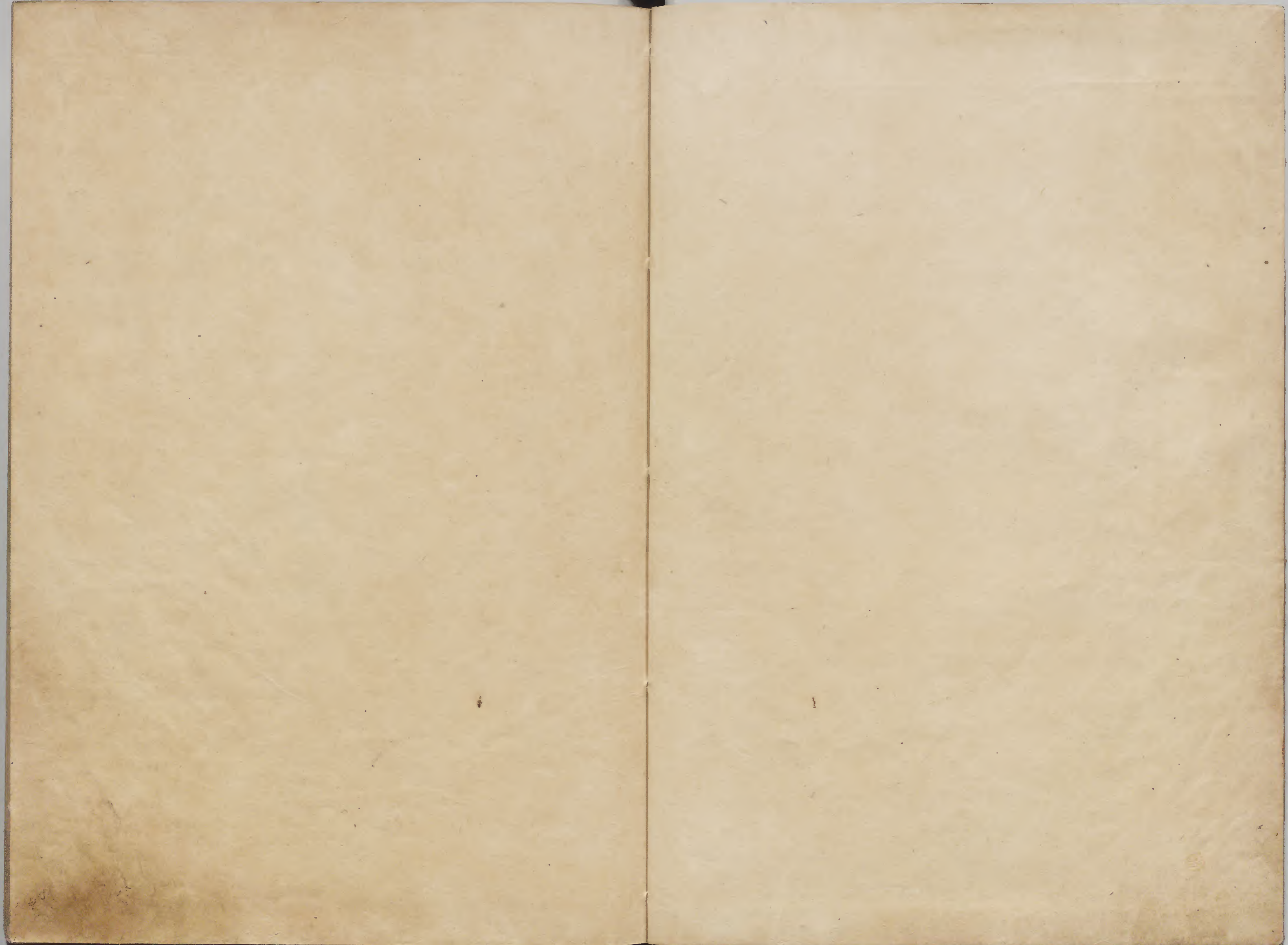
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak





長坂 日向
 内山 山中
 窪田 日比野
 と井 高室
 市川 五十嵐

寛永諸家系圖傳

清和源氏

辛六

義光流

長坂

家傳ト小笠原ト北条流トトシト傳ト

● 信政

彦五郎

後ト血錢九郎トトトトトトト

出圖 三列

淺草文庫

清康若廣忠卿

東照大権現（清人なり）

清康若此沖時教友の沖陣ニ毎夜
軍功とてげましとてく銚とつせ
敵とて子つらゆ人 清康若血銚九郎
と名とつてあはるふ

信宅

秀五

ちや利九郎、生玉同お

大権現（清人なり）懸河姉川も藤小山
長久手此沖陣ニとてつひなりと教
友此働ここれ何り

天正十年甲列陣の時織田信長ハ
本居路より甲列へおりしとたまひ

大権現ハ駿河にり沖陣のとき
駿河に鹿の城ニ甲斐の宮山梅雪密
通の沖つて信宅と梅君と
は、いさくも此に鹿城へ志のひも

五方^{このちろ}は城小^ことまりて梅雪^{つゆ}とひ
勝^{かち}れ小^ことまりて

大権現甲^{おほいけんこう}別^{わか}一^{いち}津^つを教^{しゆ}とゆ^とく落^{おち}居^ゐ
せしめ給^{たま}ひ津^つと流^{なが}の初^{はつ}梅雪^{つゆ}とた
く人^{ひと}たまふ時^{とき}は梅雪^{つゆ}信宅^{のぶぢ}より
ハ信^{のぶ}より梅雪^{つゆ}とたまふは
少^{すく}く米地^{こめぢ}と信宅^{のぶぢ}より
うく一^{いち}先^ま後^ご列^{れつ}清水^{しみず}におか
れ地^ぢとゆ^と又^{また}其^{その}福^{ふく}座^ざとゆ^と

とく^{とく}後^ごより此^{こゝ}約^{やく}とゆ^と中^{ちゆう}書^{しよ}忠^{ちゆう}勝^{しやう}取^と
里^{さと}小^こより是^{こゝ}と流^{なが}より

大権現^{おほいけん}信宅^{のぶぢ}が武略^{ぶりやく}と感^{かん}一^{いち}流^{なが}ひを
列^{れつ}首^{くび}我^{われ}に在^あらむか
毛^け三^{さん}村^{むら}とたまふ

同十八年^{どうじゅうはちねん}小田原^{おだわら}陣^{ぢん}の時^{とき}
大権現^{おほいけん}此^{こゝ}命^{いのち}より中^{ちゆう}書^{しよ}忠^{ちゆう}勝^{しやう}一^{いち}属^{ぞく}と

却^{かへ}陣^{ぢん}と流^{なが}と
同^{どう}東^{とう}津^つ入^{いり}玉^{たま}の後^ごより此^{こゝ}領^{りやう}地^ぢ落^{おち}場^ば小^こ守^{しゆ}

同十九年奥列陣の^{ろくろ}鉄砲頭と
なりて忠務に^{くわ}屬して内地に^{あつ}びく
信宅^{たけふ}と後小忠務^{たけふ}より本多忠雲守
が居^{まゐ}珠上^{たまじやう}と総玉小田喜^{おだき}此城^{このしろ}よりして
が^あ累^{かさね}松平右衛門が^ま八幡^{やわた}臺^{たい}輪^{りん}に
住^す寸

安永十二年病死 年六十七

信長

権七郎

生玉田前

台漣院殿（河）流り

天正十八年

台漣院殿後府より小田原へ御發向の時

信長寸

文禄四年病死

忠尚

秀五郎

幸利九郎

生國田前

本多田記が水の位となり

槍七郎

生國同家

孝文長二年

名瀨院殿一わー一上（？）先（？）信（？）名（？）道（？）次（？）

と存領寸

同五年真回沖陣此（？）に

名瀨院殿本曾路（？）と存（？）く（？）い（？）う（？）き（？）沖上

海北（？）と（？）き（？）道中（？）沙（？）信（？）と（？）初（？）む（？）大坂（？）と（？）く

本曾路（？）信（？）名（？）人（？）式（？）内（？）つ（？）く（？）あ（？）つ（？）り（？）一（？）時

一正沖慶養（？）と（？）く（？）て（？）銀子（？）と（？）存領寸

同十九年大坂沙陣の付松平母後と

組（？）と（？）く（？）信（？）存（？）寸

之和（？）之（？）道（？）大坂（？）名（？）乱（？）の（？）に（？）ハ（？）伏見（？）此（？）取

城沙番小（？）つ（？）く（？）ら（？）く（？）松平母後（？）と（？）同

一（？）く（？）伏見（？）一（？）在番（？）寸

う（？）此（？）後

將軍家一流人なり

寛永十九年沖鉄炮頭（？）と（？）なり

信次

榮利九郎 生玉を列

安永十四年後裔よおわく

大権現(信次)が子れりしとうつへん

り小つさめい出さる

同十六年小十人組なり

大坂毎度此法陣なりと軍なりと勤なりしなり

のり

名徳院殿(可)つつとまくを習はし御書

と流とむ

寛永九年四月七日

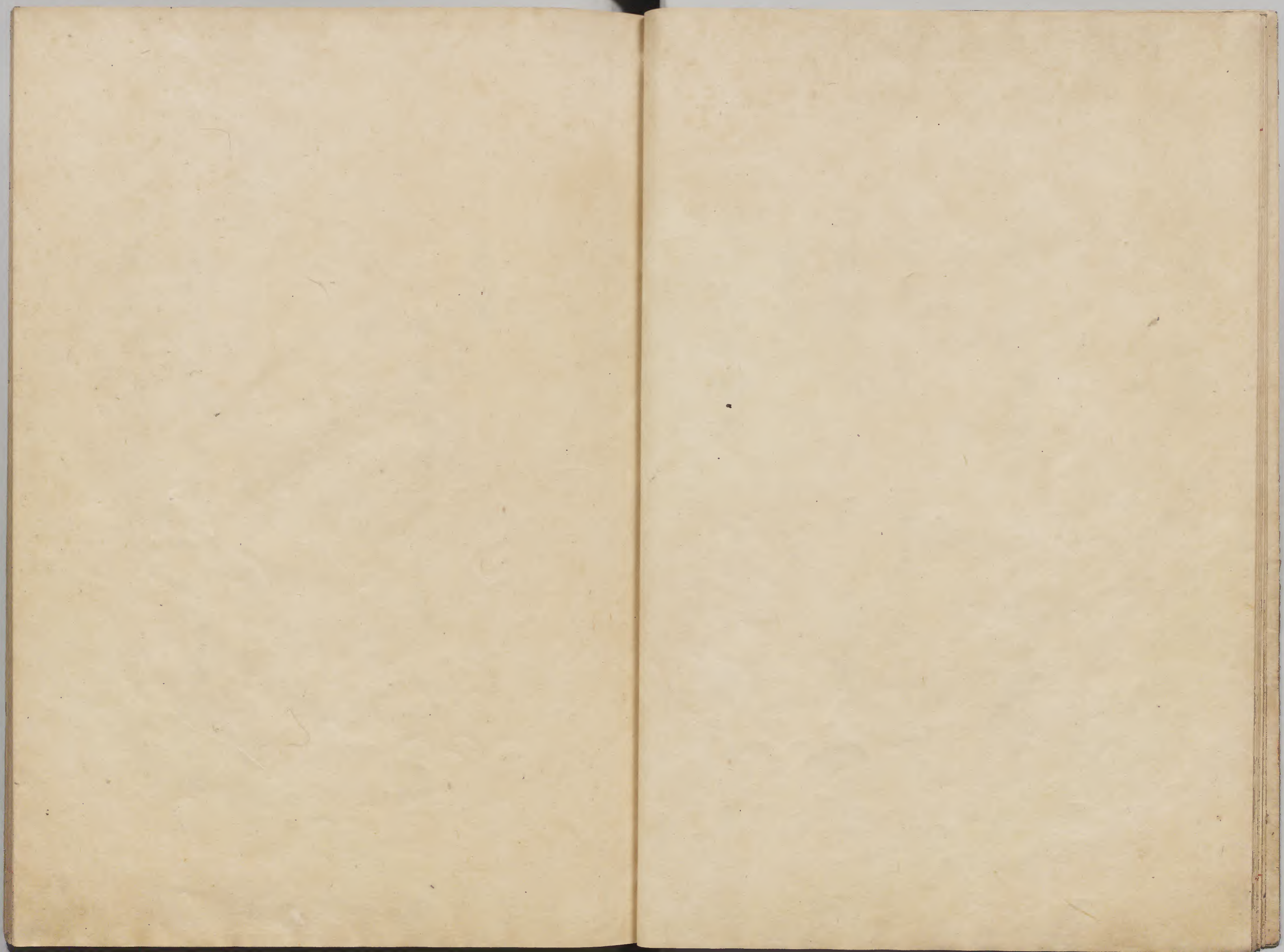
乃軍家此命なりり小十人組なり此頭なり

同年十二月 釣命なりり布なりと推

りさる

同十五年十二月なり御鉄炮頭なり

家紋の由なり文字義



名次

孫右清

生玉同名 清名宗薫

寛文五年閏ヶ原沖陣の初斗多
上野外村越茂也養者少く

大権現一冊 出さる

台酒院殿

將軍家一冊 入る

名利

長坂孫七郎 生國成翁

長坂と稱するもの母は伯父長坂

三十郎

大権現一冊 出さる

清之えんがら 金母衣此ものなるは金利

幼少より長坂と稱号とすは後

台酒院殿

將軍家一冊 入る

家紋の用ゝ
松皮まつかわ藁わら

古坂

● 皇居

次右邊門村

生國三列

柴田修理亮務家之流

大坂少く一向宗略起のとき野田

福満少く討死す

清房

次郎右衛尉 生玉同前

天正十九年

台徳院殿(石出)之

將軍家(石出)之

正房

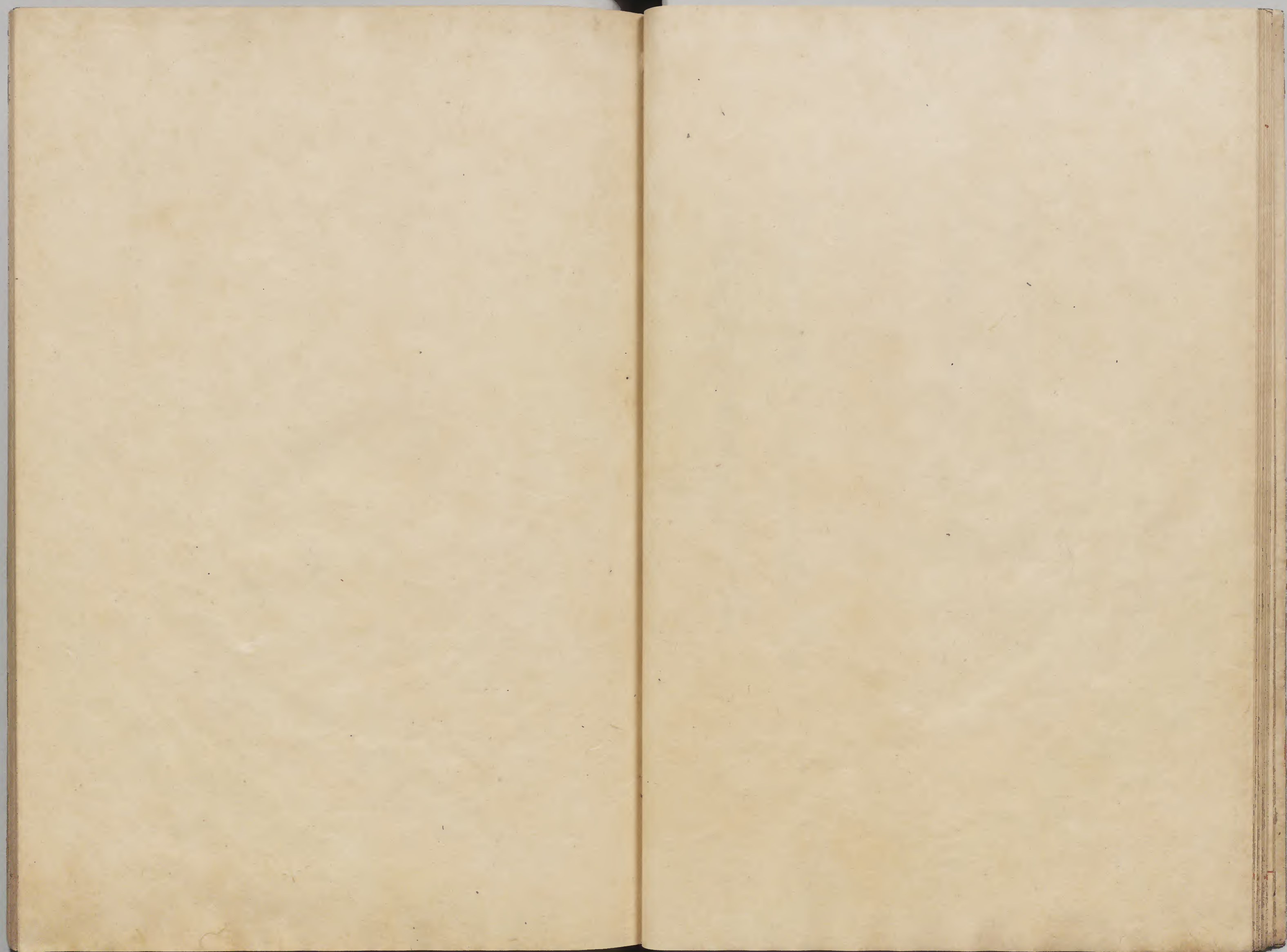
佐次右衛門 生玉武藏

寛永八年

台徳院殿(石出)之

將軍家(石出)之

家紋



日向 ひなた

神の八新津 にらぶ

● 系 まが

にらぶ 新津 友系亮 生國 信列 佐久 班
うま 上松家 上津 下津 列 岩村 田 小 おお 々 討死

系

友系亮 父と同居す 討死年三十二

系

日向玄東母 生玉同家
幼少して父母を失はれ祖母の家へ
なつて祖母は武田信玄の家へ日向大和
か母なり是ありて新津と仰ぐとあり
日向と稱す新津の家級は松皮
菱たりとも信玄より割菱有羽
と治りて仰ぐとあり

寛永十二年五月十四日八十七歳にて
死去 法名宗立

政成

傳次郎 半若湯 生玉甲斐

天正八年二月より臣列戸念の味
松田新次郎と小栗右衛門伝合戦乃時
政成甲列より戸念へおむと新次郎
自と治りて先陣よりみく鏝との

い寸翌日敵より矢を射し討て政
成が働とたつこ一組に新ちくくりく
政成が働のやう寸事流け敵より流る
寸

同九年五月廿六日武列鉦鼓の告甲
別湯野多伴社へ言より城郭より
始起寸時小

東照大権現此後より世に次第に流り討
皆録下野多と流りいさるの時政成あ人

此より属一先陣にすみく首級
らとら

同年五月廿六日甲別見坂より一揆始
起のとき世に次第に流り皆録下野多
より属一先陣にすむ

同年七月十日信別あ山北城より一揆
刑部等一揆をおこす世に皆録下野多
より属一軍切り

同年八月八日信別望月より一揆の時

河内 若田右衛門源兵衛一属一里月の城を
攻戦一首一級討とり

同年九月信列岩村田子頼田森岩尾
あゝ一揆蜂起のとき曾孫下野吉海
にて歎二人うらとら

同年岩尾筑摩川陣の時真田安房守
曾孫下野吉海と流し先陣となり
同此也

大権現一か一おきれらるる家よ政成が母一

甲列竹居村と流し

同年十一月十の神々

大権現と有流し一なる

同十一年因正月十の 釣合あゝ

後列少く厚原甲列小おろく竹居村
と有領寸

同十二年四月九の尾列長久手陣の
とき松平忠房の従一属一先陣と
あゝ首二級と討り

大権現沖出陣のとき毎度行なふ
寛永十九年

大権現より足輕五十人政成に任せ給ふ
文和四年

台漣院殿より同心十騎を任せたまふ

政次

侍右衛門尉

元和元年二月初め

大権現とある湯に参る

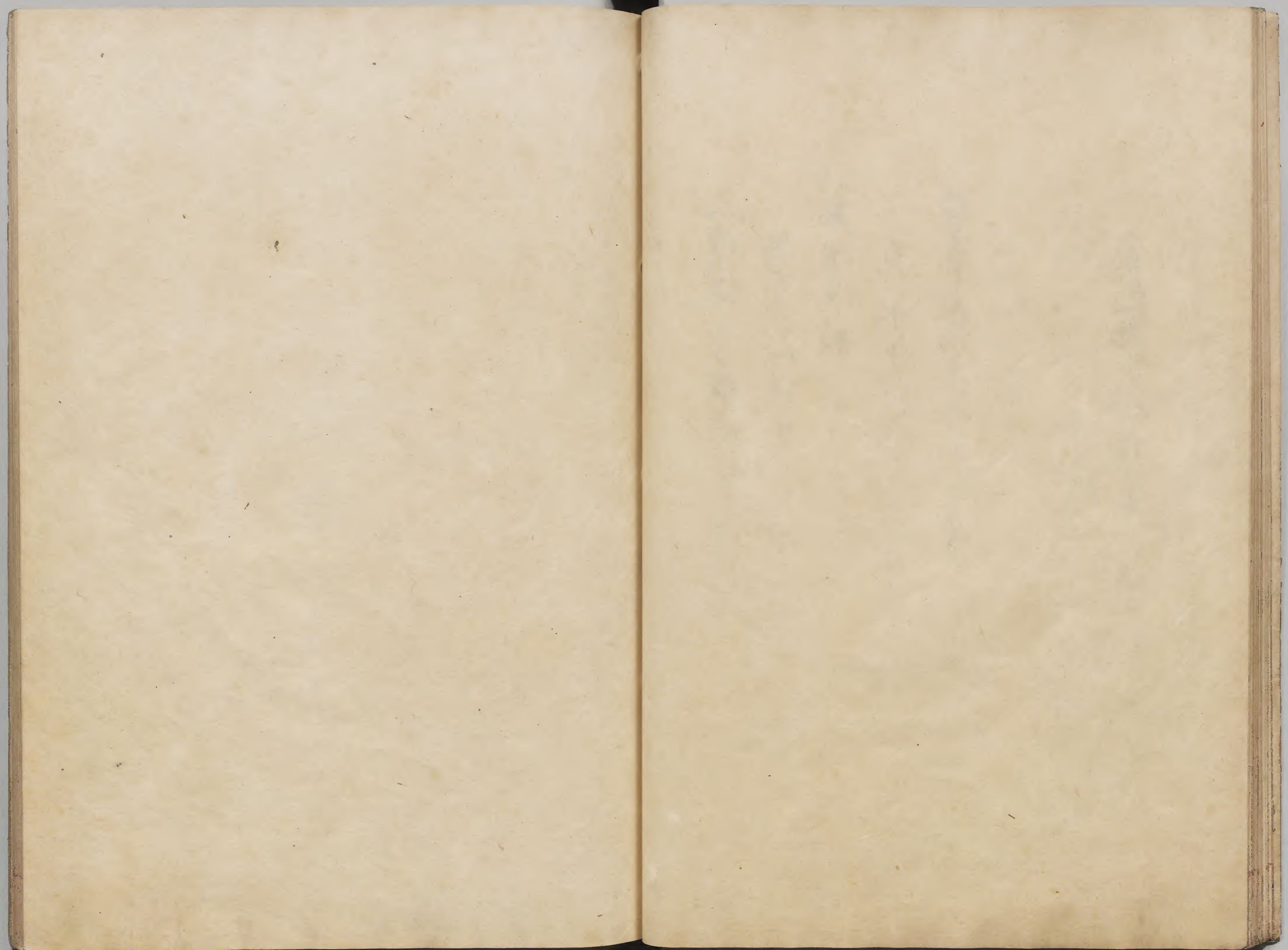
同元二年三月廿日初め

台漣院殿へ参り出さる

寛永十三年十一月古

將軍家と参り出さる

家紋神八松皮菱 後上割菱意羽



田山 いりやま

● 系 けい

左系

出園信列 しゅえんしんりつ

右明 みぎあき

左系

出玉同系 しゅたまどうけい

菅田大膳 すげだいたぜん 之史康貞 ししやうけん 小属寸康貞 せうじゆんやうけん 治人 ちひと

なり周系法陣の対名明
東照大権現の石出さしお福一なるも後
名法院殿と流るなり

永清

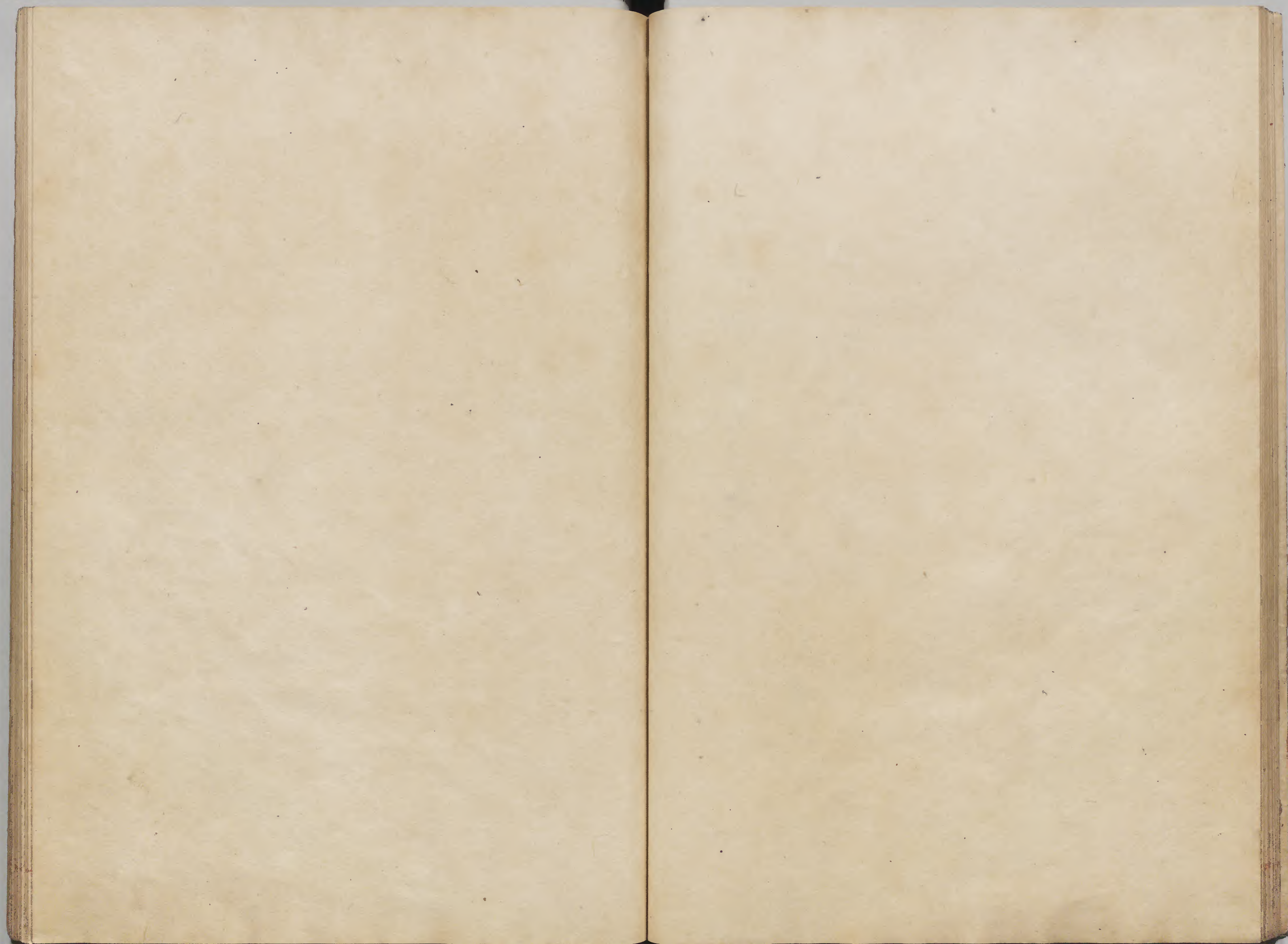
七考清

生五と野

實ハ安るニ在清の國重ウ子なり幼ガリ
祖父在系ウ喜ウ子ウ行ウモ後名明ガ子
ナリコトナリ永清ニ在流ルモ流ルモ

將軍家へ石出され流るなり

家紋松皮菱



貞次

安房りんま二左衛門 生玉甲斐

常葉こころ後河与か靴つ貞まことが未流まじり後ち安房りんまと

称号なづかと寸常すんじょう葉は平氏へいしなり

武回ぶかい信虎のぶとら信玄のぶひら父子ふち一ひと流りゅう人ひとと是こゝ柳やなぎ大おほ

乃すなはちなり信列のぶりつ若光わかつくとよおゆく信長のぶながと

謙信けんしんと合戦くわせんの時とき討死うちしす

信之 信之 信之

五陽の自因の爲中股より一ひたち飛出とのりて

貞次

安昌りんまの左衛門 生玉甲斐

常葉こころ後河与靴貞まきが末流り後りんま安昌りんまと

称号なづかと寸常葉こころ八平やへ氏しなり

武回たけまわ信虎のぶとら信玄のぶひら父子ちちこと流り入いと是こ種たね大おほ

乃すなはちなり信列のぶりつ吾光われあきとよおのり信長のぶながと

謙信けんしんと合戦あはせの時とき討死うちしす

貞國

三太海門

生五回命

信玄孫頼父子に流るるに上野松井田

虎山曲輪をまもりて足輕大將となる

天正十年甲辰没落の後貞國信列

旧領の地を領せむと死

大権現軍士と引かゝる新府城に在りた

まゝに貞國若田を過つた其康貞

屬して忠切とくげます康貞浪人の後

井伊を敵に悔せ改まらざる

天文十八年江川に和山とおかゝる病死

國重

三太海門

生五回命

若田康貞没落の後上野小おかゝる死

永清

ながひら

七言清

生

玉

上

野

ながひら

家の松皮本

このしるまのひら

山中 やまなか

先祖代々甲列郡為郡山中北城
居垣より山中と称號とす

系 けい

庶助 しよのすけ

生玉甲斐

分次 ぶんじ

下野 しも

生玉同家同山中北城小守

武田信昌より信虎小治ふ

分秀

弟作

生國同家

武田信虎小治ふ

分播

義流

生國同家 深津城にて

武田信玄小属す

天正十八年九月より卒七歳少く死す

法名道心

分行

主水

生國同家

武田信玄より勝頼没落の後

東照大権現甲列御入玉の時

石出さる

流人なり

天正十二年長久手合戦の時流人なり

歌陣うたじん小おのくこ首かみ二級にじゅうと討うららふか歌うた

二人ふたりとといいけけどどり

同十九年どうじゅうくわんねん奥列おくりゅう法陣ほふじんの時とき岩いわをを次つぎ少すくく

位ゐ少すくららりりてて氷こおりととつつくくああららままとと号ごうす

号ごう長ちやう二年にねん四月しがつ廿にじゅう九く日にち武列ぶりゅう小おこののをを号ごう

四十九しじゅうきゅう歳さい法名ほふな壽清じゆうせい

女メ童童

与九郎よとく 左ひだり太た夫と 生國なまくに同どう前まへ

天正十九年

大権現おほいけんとと名な一いち葉は家か

同どう年ねん奥列おくりゅう法陣ほふじん小おこののをを号ごう後ご

台たい漣れん院いん殿でん

乃の軍ぐん家かへへ流りゅう入いりりててままりり家か

寛永十二年くわんえいじふにねん十二月じふにがつ廿にじゅう五ご日にち武列ぶりゅう少すくくく死しす

五十八ごじゅうはち歳さい

女メ政政

与九郎

生玉目家

台津院殿

將軍家へ送るへ事家

元和七年十一月廿四日病歿二十七日

常義つねよし

与五右衛門

生玉後列

寛永七年六月

將軍家へ送るへ事家

重之あじゆき

源存徳

生玉武家

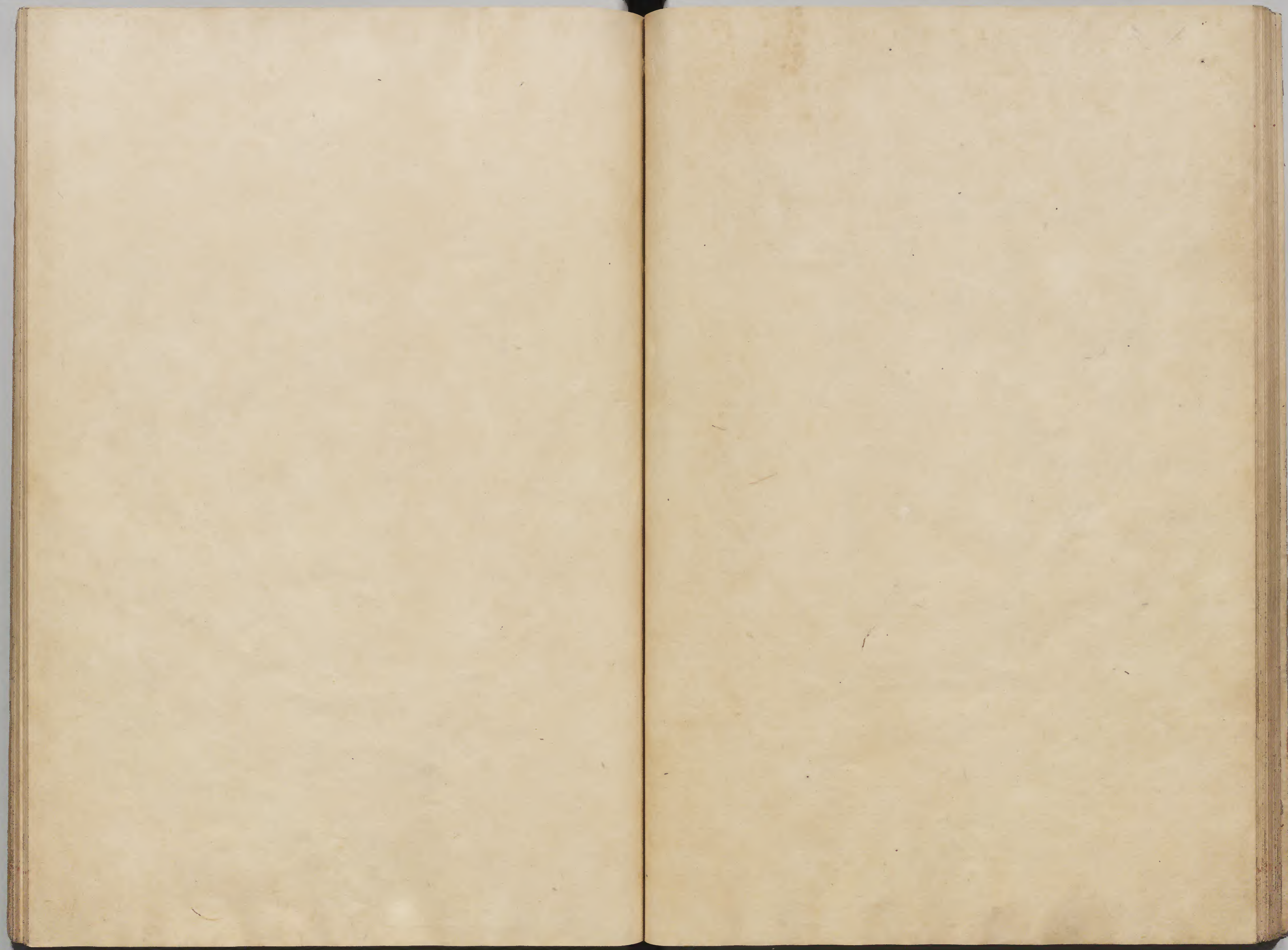
元和八年

台津院殿

將軍家へ送るへ事家

常義家つねよし 乃の目小裏ののめこら 錢ぜに

重之あじゆき 殿のり 松皮まつかわ 麦あわ



窪田かた

正後

弥左衛門

生玉甲列法名意安いん

成田後村上清久

天正十年

東照大権現甲列あかし（御出立の時に出され

有あ福寸

正成 まさなり

源五三

生玉同前

おしやきん
法名宗安

大権現

台漣院敬小法久く人ひとそそまま川川家家

正次

新左衛門

生玉同前

台漣院敬

將軍家へ法久く人ひとそそまま川川家家

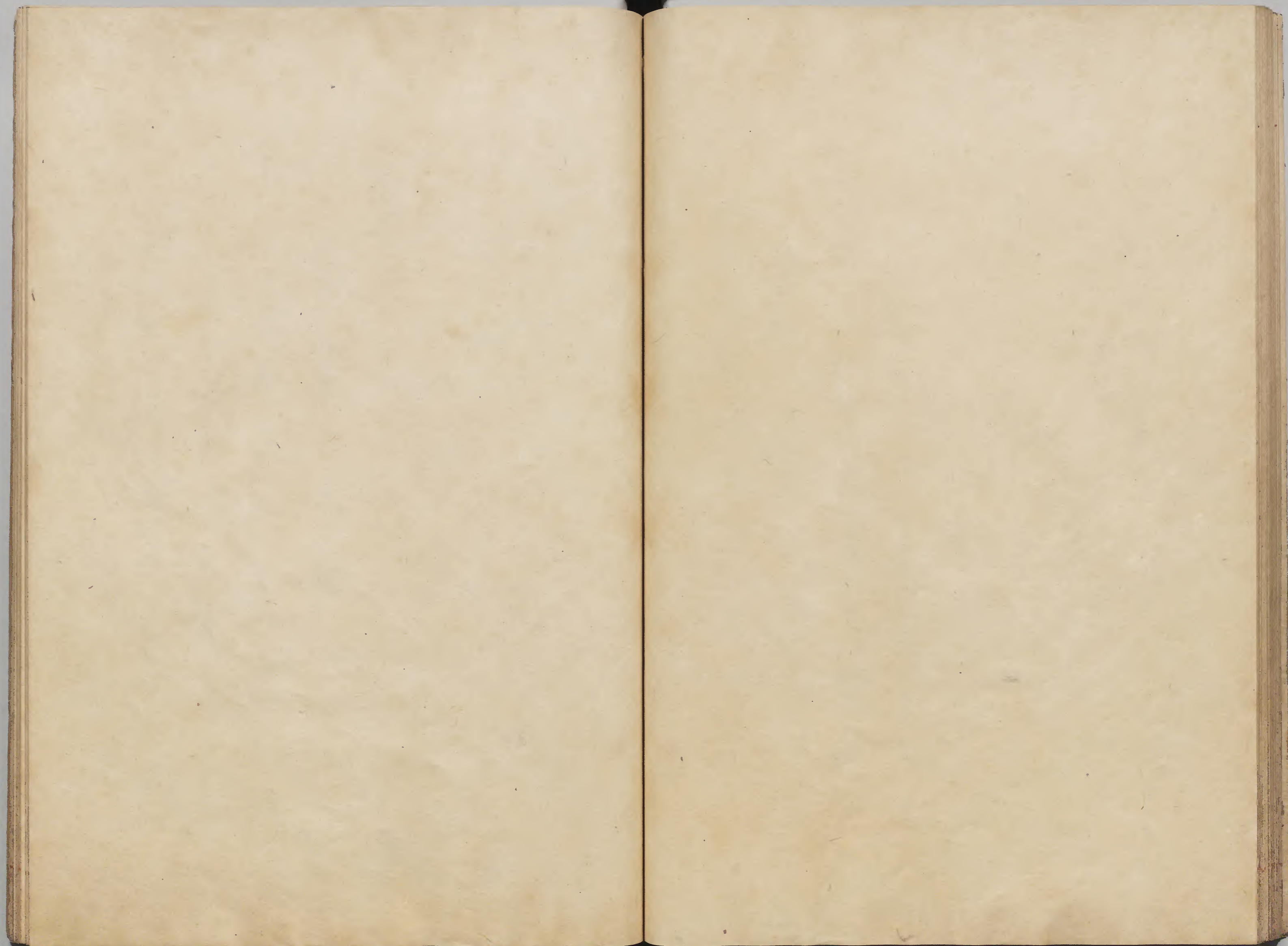
實まことの横屋よこや勅ちく務む子こなり正成まさなり御ごなりて

子ことす横屋よこや勅ちく務むの生玉なまたま甲か列れつ横屋よこや宮みや内うち

法名ほつな道悦みちえつが子こなり道悦みちえつの生玉なまたま同どう信のぶ玄げん家け

臣おみなり

家紋松皮菱



日比野ひびの

初はつ村井氏むらゐのうぢなり

● 忠次ちゆうじ

村井大守 生必信列

小笠原氏おがさわらうぢ小治おさむらふ小笠原没落おがさわらの後

小柴安藏おがさわらやすざうと小属おがさわら村井とつゞいて

日比野と長寸足種大納ひびのとつゞく軍功ぐんこう

何なんも小より感かん快たいをささげ

越後陣の討死

忠安

大学

生玉上列

小糸安房守と流石安房守没落の
後酒井重成忠世と流石上列とあ
て病死

忠重

八多清

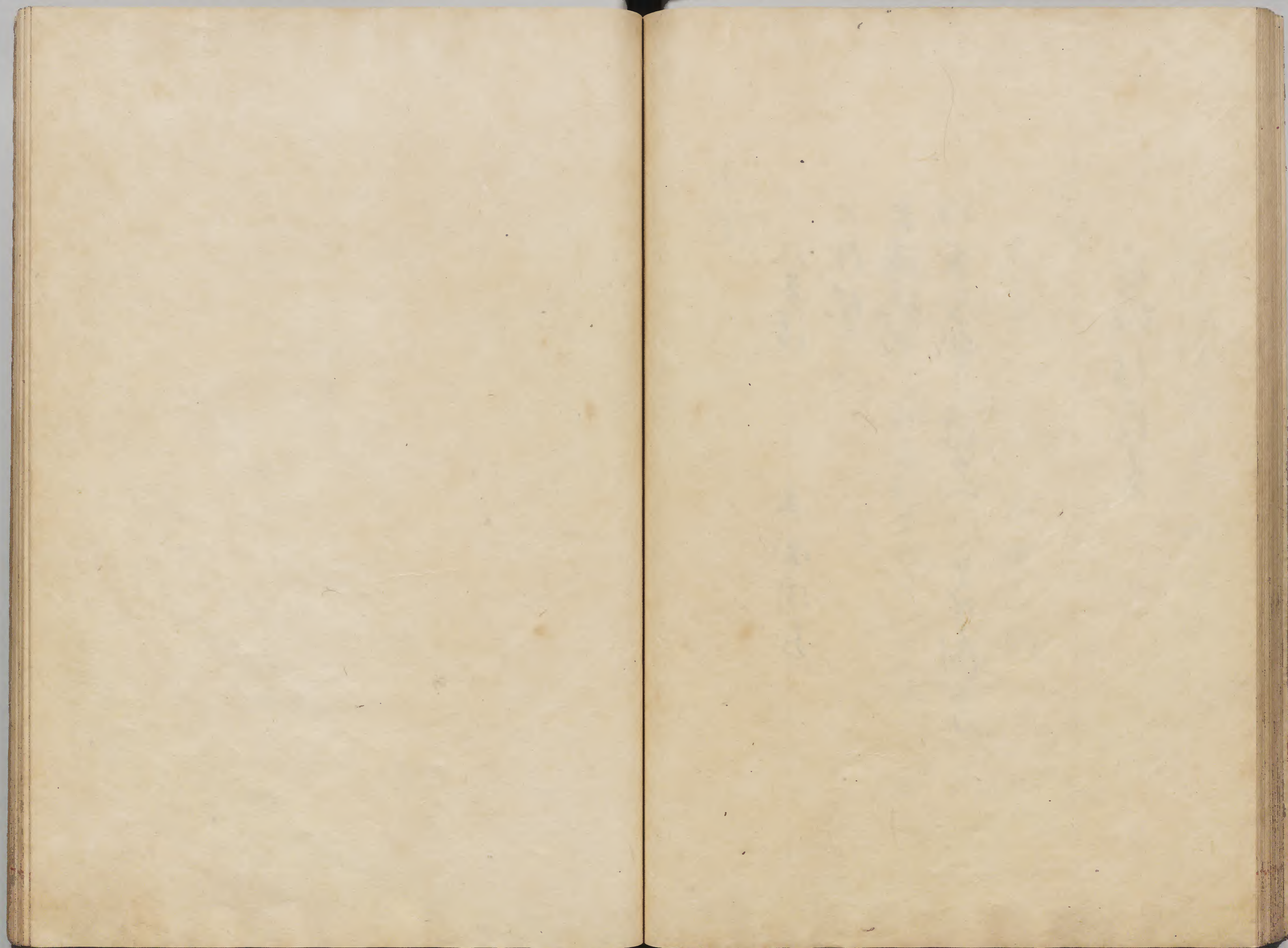
生玉同列

大権現

台徳院殿

將軍家より流石とすまはる

家紋松皮菱



今井 いまい

昌也 まさや

民部 たみべ

生玉甲斐 なまたまかい

武田信玄 たけだのぶげん

永禄四年九月川中湯合戦の時記 えいりく四年九月川中湯合戦の時記

昌吉 まさきち

左衛門 さゑもん

生玉同前 なまたまどうぜん

武田信玄後頼父子と云ふ

天正十年

東照大権現甲列法入玉の時石出と云

お福寸

昌安

九多邊門

生玉同外

大権現

台徳院敬

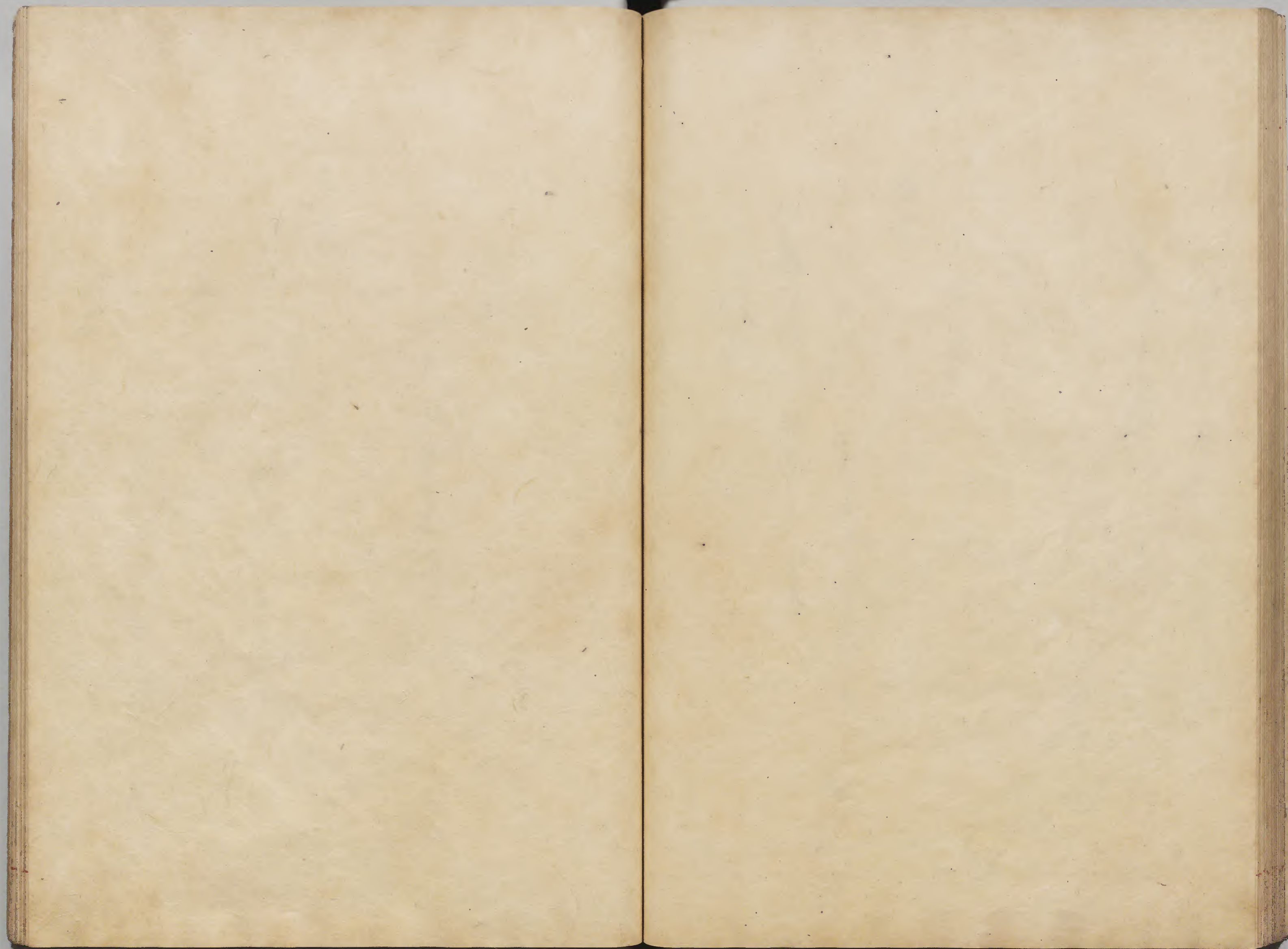
將軍家と有瑞一なり

忠昌

八郎左衛門

家紋所の目松皮書

まろりり



● 兼負かねぢ

今井いまい

四郎兼平しろうかねへいが末流すえりゅう

彦右衛門村

判装はんそうして宗久むねひさと号す

法親ほっしん 生玉和泉なまたまわいみ

信長のぶながより譲りて橋列はしりゅうよおわく以地もち二子

二百石と給り

兼久

帯刀

宗薫

生玉用あ

父兼久を以ておろし二子三百名のおろし

千二百名秀を令へしけのころるを

秀をより給りし秀を豊に後法大石

縁を治むすまきしは市を令の

東照大権現の命より政宗に甚母と忠輝を

へ縁をのりしと

時の五身りお議して宗薫一人が樹に申

なすとしも三刻首尾よく清きと

勅よりし開が京清陣の時清は

をせしき三百名は内お務りて都令千

三百名と相成す

大権現れ命を呼りし和泉河内をく清代

友と勤む

大坂一札のしは序相帝に令増政宗

采山小若清と宗薫中けを和泉の埋

まじりのあ

大権現へ御参りとおつとむる言はるること

大坂へいさえすから宗景宗吾父子大

坂上石ころの家城志没收せらるる此

うへ大坂どのくれ出りとき

大権現の魔下と云くうふすう三た物成紙と

いふととんども

大権現と云くいふまう大坂法陣れ伝を

兼隆

平尾藩の村 生玉田あ

台法院殿

將軍家とねーなり

此地がひい御代友宗景宗吾田あ

あつせつけらる

魚續いさづき

彦太清の尉 生玉田家

お軍家とある為いふなり一廿り魚隆田家いさたかの地まち

がび小沖こいづみ代友とも下と 仁村にむら

家紋の用もち捨扇すてあふ

高室 たかしむら

● 家次 いえつぎ

平右衛門

生田甲斐

法石通連 しほしちゆうれん

武田信虎より

久家 ひさけ

考案

生田同家 しほしちゆうけ
法石通連 しほしちゆうれん

武田信玄猶如父子不流不

昌重

甲斐守清門

生玉田家

武田勝頼不流不

天正十年

東照大権現甲列御入玉の時又次也

おもしろい石出されお福一暮らし後

台酒院殿

將軍家へ流るるをそまへる

昌成

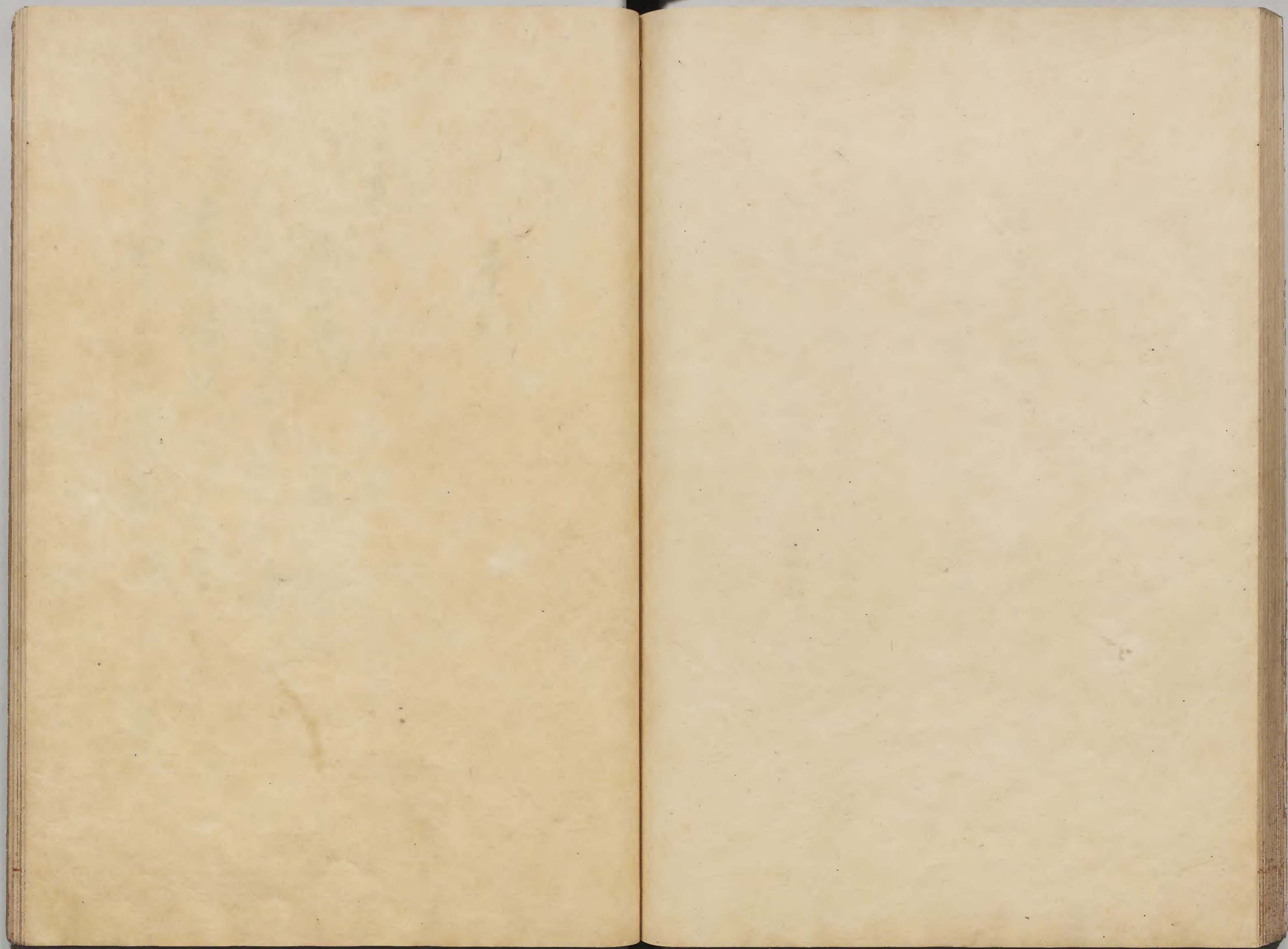
新二郎

生玉武家

台酒院殿

將軍家へ流るるを

家紋松皮菱



市川

系

清右衛門

出玉三河

廣忠卿上流久多後

東照大権現上流久多後

安永七年病死時上七十歳

信次

清左衛門

出玉後列

大権現

台酒院殿

將軍家上清久

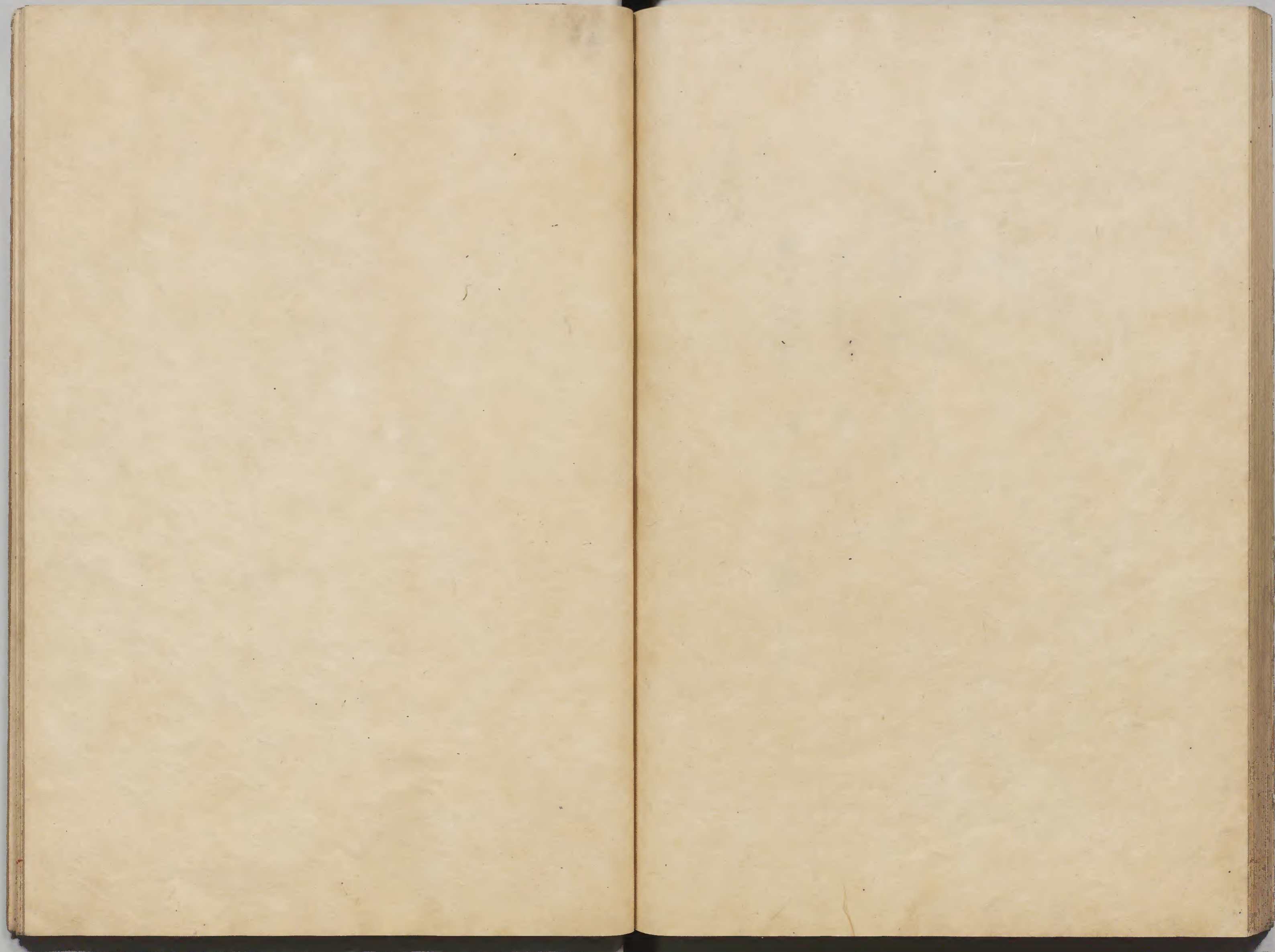
寛永十七年五月庚子病死時上

六十歳 法名了悟

正次

若之郎

出玉武列江戸



市川

系

油後守

生玉甲斐

袖めは信虎信玄物頼代工流ふ

うたぐら

東照大権現へ正公より頼守

歳八十三あり病死

系

内膳正

生玉同家

信玄掛札上流人長瀬合戦の時
討死

海友

後左衛門

生玉同家

天正十四年

大権現小舟場しんげん一しんげんあり

小田原奥列國おだわら系けい三さん所ところ北きた陣じん上
修しゆ車くるま一いち所ところあり

名瀬院殿上流人なりて大坂夏度北陣
陣上修車寸

將軍家上流人なりてまじり家

寛永十四年病死六十六歳

友昌

茂左衛門

生五武藏

寛永十年

將軍家上流人々々々々々

家級まうらひ松皮菱

市川

定友

加頃

生田氏

北條家より流るる武列小山田氏由大森村
三橋村よりおろく文禄元年よりおろく
定友より領地寸 以名道連

定信

第1

生玉同家

小幡氏政より流るるを列二方系合戦
此より信奥より信玄へ加勢と
してを友成朝高より五十騎より一こころ
より内よりりりて教向して二方系より
討死 流るる者同

定信

孫右衛門尉 生玉同家

父定信討死の後定信告知なりと之
とも小幡氏輝より流るる小幡系流
とむ

孝文天皇より大正保元元年
年の月日御代友と勤心

同十八年

台徳院殿へりし出され

將軍家とつらましく
泣く事

家紋丸の目と
涙しほ

五十嵐

茂政

久吉衛

東照大権現

台徳院殿

將軍家とある一説あり

生玉下総

常廣 のろ

仁右衛門 生五三列

實のろ小笠原傳信のろ高廣のろ子なり

寛永二年

台漣院殿

將軍家のろ一のろなり

同十七年二十五歳のろ少く病死のろ法名淨真のろ

廣文 のろ

仁右衛門 生五三列

家紋のろ松皮菱

系 のろ

小笠原但馬守 生五三列

大権現のろ命のろありて小笠原母波守のろ継のろ属

一のろて流のろ人のろなり 病死七十歳

た
ひろ
高
廣

傳左衛門

生玉河家

寛永二年五十二歳少く病死

